

進路だより

平成 29年4月28日発行

岩手県立釜石祥雲支援学校

支援部 進路担当

～ 校長挨拶 ～

岩手県立釜石祥雲支援学校 校長
横澤 修



4月6日（木）の始業式、7日（金）の入学式を終え、校舎内にも児童生徒の元気な声に戻って参りました。校長である私も含め、教職員も新たに入れ替わる中、平成29年度の釜石祥雲支援学校の学校生活がスタートしました。

本校では、校訓として「希望」「健康」「自立」を掲げ、日々の実践の中で取組を続けているところですが、改めてこの校訓、特に「希望」とは、進路実現に直結する大切なキーワードであることに気づきます。

例えば、小学部の児童にとっても、「将来は〇〇になりたい」という夢をもつことが非常に大きな力になり得ます。この夢は成長と共に変化しても構いません。低学年から高学年へと至るまでの成長により、興味・関心が増え、夢がさらに広がることは、むしろ自然で喜ばしいことです。その時その時の「夢」を大きな手がかりとして、学校生活や家庭での「働く力」「働く意欲」につながってくれば、と願っています。

中学部の生徒にとっては、作業学習や生活単元学習などで、より「働く」ことのイメージをもち、あるいは小学部よりも難しい教科の学習などをおしてさらに興味・関心を広げ、「自分の将来像」について、自分なりに少しずつ希望を膨らませていく時期かと思えます。様々な可能性を見つけ、より具体的な「希望」をもちつつ学習に取り組んでほしいと思えます。

そして高等部の3年間では、産業現場等における実習や校内実習をとおして、あるいは社会体験型の学習や各種大会などへの参加をとおして見聞を広げる中で、本人や保護者の望む進路が見え、生徒一人ひとりが希望進路の実現に向けて「希望」がとても大きなエネルギーとなって、「自立」に向けて邁進する時期を迎えます。

岩手県における今年度の『学校教育指導指針（特別支援学校）』におきましても、学校が重点事項として取り組むべき内容として、“幼児児童生徒一人一人の将来の望ましい自立の姿を本人、保護者と一緒に描きながら、その実現に向けて各学部間の相互理解によりその発達段階に応じた一貫性と継続性のある指導を行う”こととされています。本校としても最大限に努力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

卒業生の様子紹介

この春、卒業した先輩方もそれぞれの進路先で頑張ってます。

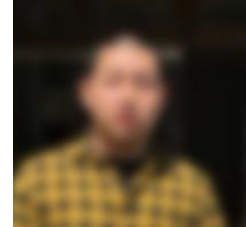
駒林芽唯さん【進路先：夢工房・カトレア】

部品のバリ取り作業や農業などを頑張っていました。「工賃をいただいたら、わらび学園のパンを
買いたい！」と張り切って仕事に取り組んでいました。



山口浩平さん【進路先：わらび学園】

月曜日から木曜日までは、地元の企業にて段ボールの解体作業、金曜日はわらび学園にてパン作りを頑張っています。「おいしいパンをたくさん作るぞ」と張り切っていました。



進路関係行事予定(~7月)

小・中学部		高等部	
6月 12~23日	・前期校内実習(中)	5月 (期日未定)	・個別移行支援会議① (期日決まり次第お知らせします。)
23日	・進路学習会(小保護者)	6月	
26日	・進路学習会(中保護者)	5~16日	・前期校内・現場実習
29日	・施設見学(中)	7月	
7月		14日	・卒業生との交流会
27日	・高等部体験入学(中)		

進路担当職員の紹介

今年度の担当職員です。進路に関してご不明な点がございましたら各学部担当の職員までご相談ください。よろしくお願いいたします。



菊池裕志(高等部)



佐藤規(中学部)



皆川智美(小学部)



佐々木優希(高等部)